

匠の技がそこにはある

郷土にはぐくまれ
受け継がれてきた
『技』と『歴史』

りゅうげんがま 竜元窯
えがみ 江上
えがみ 江上
げん 元さん
しん 晋さん

氷川町で5件目

3月5日、熊本県伝統工芸会館において、平成23年度熊本県伝統的工芸品指定書交付式が行われ、高田焼 竜元窯の江上元さん、江上晋さん親子が熊本県伝統的工芸品の指定を受けました。

氷川町に窯を構えて30年。親子で製作をするようになって6年。江上さんの作業場にお邪魔しました。

創造を形に

「思い描いたものが形になる。それが魅力。」

これが、最も印象に残った言葉。この日、成形と高台削りの作業していた二人の職人。彼らの頭の中には、一体どのような完成図があるのでしょうか。

これから…

お二人に今後を聞いてみました。元さんは、

「基本を踏襲しつつ、自分オリジナルの作品を造り、新たな分野にも挑戦、開拓していきたい。」

また、晋さんは、「模倣ではなく、自分にしか造れないもの。今の生活に合う新しい伝統的工芸品を造っていきたい。」と話してくれました。

完成まで1か月以上

土づくりが始まり、成形、象嵌、素焼きなどを経てよいよ本焼き。

1250度で15時間焼く作業は、わずかな温度差でも出来栄えが変わります。

「火を止める瞬間が一番緊張する。」

と元さん。いかに、重要な作業かが伺えます。

そうして、ようやく窯出し。幾多の作業を経て、生まれた作品たちは、美しい姿で私たちを魅了し、楽しませてくれます。

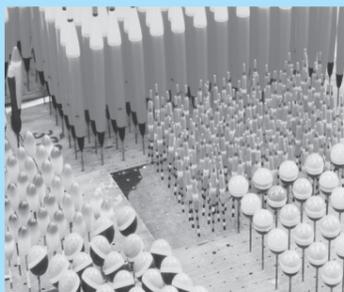


青磁を基調とした白・黒の象嵌紋様が深い味わいを出し、広く愛用されている。



移り変わる時代の中で先人から受け継いだ伝統。そして、未来へ引き継ぐ伝統。そして、未来へ引き継ぐ伝統。お二人の今後ますますのご活躍を祈念します。

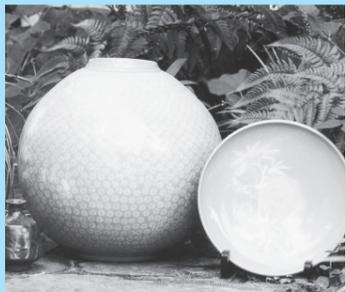
氷川町の伝統的工芸品



「ギンナンうき」桐製のうきは、感度が良く、多くの釣り人に愛用されています。



「木工房ひのかわ」細かいところに心遣いが感じられる製品です。



「肥後高田焼 伝七窯」緻密な美しい細工に目を奪われます。



「彦一ごま」人形のすべてのパーツがコマでできています。

▲親子でもライバル。「お互いに刺激を受けています。」と話す江上晋さん(左)と江上元さん(右)